

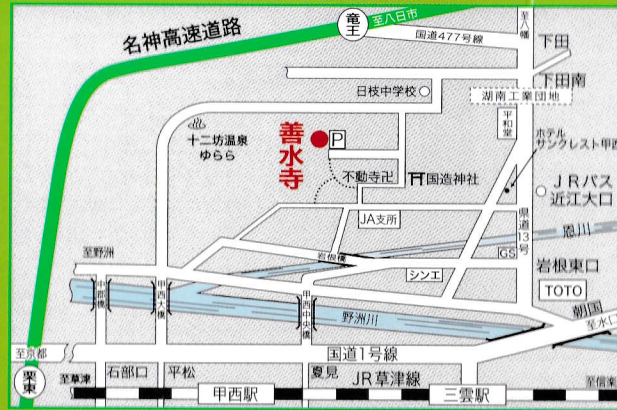


西国薬師霊場第四十七番

岩根山

善水寺

善水寺アクセス案内



- J R ●草津線甲西駅より「甲西町ふれあいバス」利用「岩根」バス停下車、徒歩15分
●草津線三雲駅下車タクシー10分
- JRバス ●草津線三雲駅より近江八幡方面行「大江大口」バス停下車、徒歩20分
- 自動車 ●名神竜王より国道477、県道13号線を経由して、下田南より十二坊方面へ進む
●国道1号線平松より十二坊温泉を経由2キロ
●国道1号線朝国より県道13号線に入り、岩根東を左折、岩根橋西詰を右折、JA岩根支所より山手に向かう(小型車のみ通行可)
※山上大型駐車場有

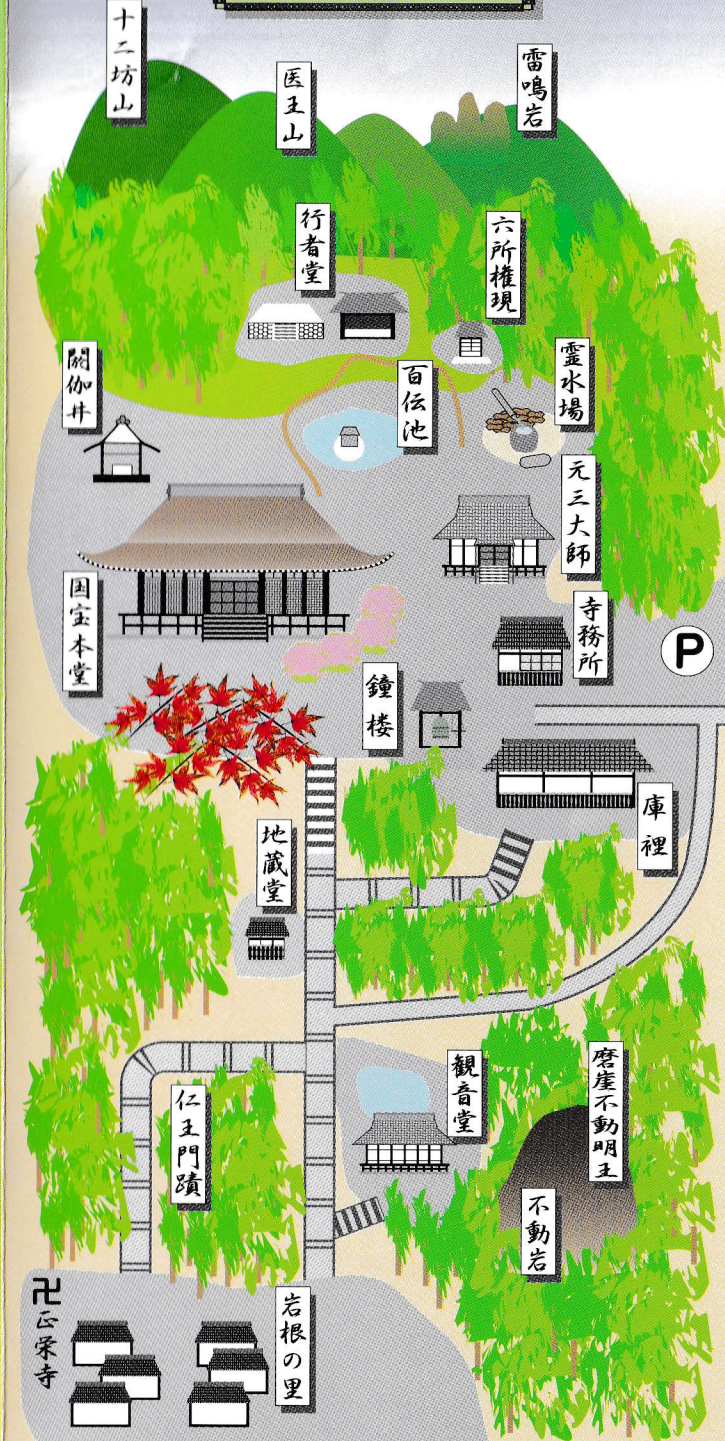


— 善水元水 —

天台宗 岩根山 善水寺

滋賀県甲賀郡甲西町岩根3518
TEL0748-72-3730 FAX0748-72-3847

善水寺見取り図



善水寺の由来

奈良時代和銅年間(七〇八〜七一五)元明天皇勅命により鎮護国家の道場として草創され、和銅寺と号した。延暦年間傳教大師最澄上人、比叡山を開創され、堂舎建立の用材を甲賀の地に求められた。材木を切り出し横田川(野洲川)河岸に筏を組み、いざ流し下す段になったが日照り続きの為、河水少なく思うように材を流すことができなかった。

大師、請雨祈禱の為、淨地を探されたところ、岩根山中腹より一筋の光が目射し込み、その光りに誘われるまま当地に登られた。山中に堂、その東に百伝池あり、池中より一寸八分、閻浮檀金の薬師仏を勧請され、その薬師仏を本尊として請雨の祈禱を修すること七日間、満願の日に当たって大雨一昼夜降り続き、流の勢いそのまま、材は川を下り琵琶湖の対岸比叡の麓に着岸したと云う。

後に、京の都で桓武天皇御病の際、大師、靈仏出現の池水を以って薬師仏の宝前にて病氣平癒の祈禱を修すること七日、満行なつてこの靈水を天皇に献上されたところ、御病忽ち平癒された。この縁に依つて『善水寺』の寺号を賜わつたという。

観音堂

元禄九年、東尾観音堂を中尾岩藏院旧跡に移し丈六観音像を修理安置す。

行者堂

明治九年、飯道寺岩本院行者堂を移し、行者仏を安置す。

岩根山

○標高四〇・五メートル。通称十二坊。石根山にも作る。(近江輿地史略)

○嶽、甲賀山とも呼ばれる。(町史)

○其高峰を十二坊山と云う、昔善水寺の十二坊有る地なり。(東海道三)

○往昔、三尾に分つ、東、清涼山を東尾、西、十二坊山を西尾とし、現(本堂に所在の地を中尾と云う。坊舎は総て二十六坊有り。(明治二十九年古記ノ写)

○家 集 行末を思うも久しき君が代は 岩根の山の峯の若松 俊 成

○天 木 集 久しきのしるしなるべし色かえぬ 岩根の山の松の緑は 藤原実政

○新千載集 石根山やま藍にする小忌衣 たもと豊かにたつぞうれしき 大江匡房

十一坊

○善水寺古記には、西尾十二坊との記述有り。

○善覚院 中之坊、角之坊、岩藏坊、持蓮坊、宝泉坊、角心坊、善明坊、淨心坊、大門坊、宝乘坊、実藏坊。(町史、天正年間の旧記)

百伝池

○百伝の池ももつての池に訓ず。善水寺本堂の東に有り。岩根の池と云う。

○天 木 集 ぐちなしに いかでか句はむ百伝の 岩根の池の山吹の花 公朝

○草 庵 集 かとくだに 岩根のいけにせく水の 深きにつけて洩らし兼つも 頼阿

○彌川次郎百伝 汲みて知る 人もあらじな思うこと 岩根の池のいひし出でねば 大伸

雷鳴岩

○善水寺本堂東、百伝池上方に有り。延暦年中傳教大師最澄上人、請雨の祈禱を修すること七日、満願の日天神感応してにわか一天かき曇り、雷鳴振動して大雨車軸の如く一昼夜にして止め。この時の落雷の跡を雷鳴岩と云う。

医王山の壺

○本堂真北の頂を医王山と言ひ、そこに一つの壺が埋められており、どんなに日照りが続いてもこの壺の中には常に水があるという。傳教大師、請雨祈禱御修法の旧蹟と伝えられる。

不動の大岩

○観音堂東南に巨岩有り。東西 十九尺(約六メートル)、南北 十八尺(約五・五メートル)、高さ 二十七尺(約八・二メートル)の大きさである。北面上部に磨崖不動明王があり文亀四年(一一五〇)の年記名が有る。

本

堂 国宝

南北朝時代、貞治五年(一二三六)再建

木造平屋建、入母屋造檜皮葺、桁行七間、梁間五間。出組、中備撥形間斗束、蛇腹支輪付、二軒繁垂木。

天台密教仏殿。前二間通りが礼堂(外陣)、中二間通りが正堂(内陣)、後二間が後戸、後戸には五間中の張り出しが付く。礼堂の周囲は、内開きの部戸。正面に向拝を持たないため美しい屋根の曲線が覗える。礼堂内部は、中央の二本の柱を省略しているが、通常は虹梁を前後方向に架けると、桁行方向に三間中で大虹梁を架け渡している。さらに通常の梁の位置には華麗な彫刻の施された拳鼻が設けられている。

——本尊薬師如来をはじめ三千余軀の仏像を安置する。——

元三大師堂

江戶時代、正徳三年(一一七二)再建

本尊元三慈恵大師良源大僧正の等身大尊像を安置する。

重要文化財 金銅釈迦誕生仏

一 軀 天平時代

重要文化財 本尊薬師如来

一 軀 藤原時代

重要文化財 梵天・帝釈天

二 軀 右一具像

重要文化財 四天王

四 軀 右一具像

重要文化財 僧形文殊菩薩

一 軀 右一具像

重要文化財 不動明王

一 軀 右一具像

重要文化財 兜跋毘沙門天

一 軀 右一具像

重要文化財 金剛力士

二 軀 藤原時代

重要文化財 持国天・增長天

二 軀 鎌倉時代

県指定文化財 銅造善光寺阿弥陀如来

一 軀 鎌倉時代

元久三年(一一二〇)

町指定文化財 聖観世音菩薩丈六像

一 軀 藤原時代

釈迦如来

一 軀 鎌倉時代

聖観世音菩薩

一 軀 鎌倉時代

十二神将

十二 軀 鎌倉時代

文永九年(一一七二)

不動明王磨崖仏

一 軀 室町時代

文亀三年(一一五〇)

扇面薬師如来懸仏

三 面 室町時代

文亀四年(一一五〇)